



今月の The World Times では、世界の人々が月をどのように捉えているかについて紹介します。日本では、9月といえばお月見を思い浮かべますよね。そんなお月見の文化ですが、日本とほかの国とでは違う点も多くあります。今回はお月見の歴史や各国の違いについて紹介するので、是非新しい視点でお月見を楽しんでみてください。

お月見の起源

中秋の名月(旧暦の8月15日)に月を見る文化が始まったのは唐(中国)で、「望月」と呼ばれる風習がありました。その風習が平安時代ごろに貴族階級に広まったことがお月見の起源と考えられており、紫式部の源氏物語にも「月の宴」というパーティーがあったと記されています。貴族たちの「月の宴」の風習が庶民に広まっていった時、稲が無事にできたことに感謝し、豊作を祈る意味合いが強くなり「十五夜祭り」として発達していったといわれています。

世界のお月見文化

世界各国に月を愛でる習慣はありますが、お月見の行事はアジア圏に限ります。風流で静かな行事というイメージの日本のお月見とは違い、祭りのように盛り上がる国が多いようです。

ここでは主な国の文化についてまとめました。

○中国

「中秋節」と呼ばれ、春節(旧正月)に次ぐ一大イベントです。月の丸さと「円満」をかけて家族で団らんしながら過ごします。また、この日は祝日です。中国については次のページのインタビューも併せてご覧ください。

○韓国

秋夕(チュソク)と呼ばれ三連休になります。日本のお盆と似ていて、秋の収穫に感謝するだけでなく先祖の墓参りもします。帰省する人も多いそうです。また、「松餅(ソンピョン)」と呼ばれる半月型の餅を食べます。

○ベトナム

節中秋(テットチュントウ)と呼ばれています。月を見る文化以上に、子供のための日という文化が強くなっているようです。灯籠を流すのも定番です。月を見ることがあまり重要でないのは、一説にはこの時期のベトナムは天候があまりよくなく、お月見に適していないからだと言われています。



また、地域により月の見え方も異なります。上段左から順に、日本はウサギの餅つき、南ヨーロッパはカニ、北ヨーロッパは本を読む老婆、下段左から順に、カナダインディアンはバケツを運ぶ少女、アラビアはライオンとなっています。

ヨーロッパについて

ヨーロッパではアジアの地域とは違い、満月は伝統的に邪悪なものとしてとらえられてきました。英語で lunatic (ルナティック) は「気が狂っている」ことを表します。また、満月の日に人狼はオオカミに変身し、魔女は黒ミサ(ローマ・カトリック教会に反発するサタン崇拝者の儀式)を開くと考えられていたのが、満月が邪悪のものとしてとらえられていたその最たる例です。月をこのようにとらえていたヨーロッパでは日本のお月見文化は生まれなかったようです。

インタビュー

中国出身の K.R さんに中国のお月見文化についてインタビューしてみました。

Q 中国にお月見に文化はありますか？

A あります。

Q どんなことをしていますか？

A 月餅(げっぺい)をたべています。

Q 月餅とはどういうものですか？

A 右の写真のようなものです。とてもおいしいです。

月餅を食べてみましたが、とてもあまくておいしかったです。



編集後記

お月見は日本だけでなく、アジアの国々で行われている一方で、ヨーロッパでは月へのネガティブなイメージにより行われていませんでした。

同じ月でも、地域によってその地域の文化や伝統により、とらえ方が異なるので、ぜひいろいろと調べてもらいたいと思います。